

# 10月号パラパニュース

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2-4F

電話：03-6229-5423、FAX：03-6229-5420

メール：jppf.jimu@gmail.com

ホームページ：http://jppf.jp/

## 北九州2018ワールドパラパワーリフティング アジア・オセアニアオープン選手権大会

写真：西岡浩記

### 記者会見

9/5、会場設営から、アジアオセアニア大会は始まった。シミズオクトさんはじめ、舞台づくりのプロが設営を開始する中、小倉城を一望できる、ホワイエでは、北九州市の皆さんが中心になって、今大会の記者会見が開催された。役員側としては、ワールドパラパワーリフティングを代表して、ホルヘ・モレノ氏、カマルザマン・カディール氏が出席し、今大会の概要を述べた。



連盟からは吉田進理事長が大会開催の挨拶、北九州市からは、北橋健治市長にご出席いただき、市制55周年にあたり、北九州市におけるこの大会の開催意義を述べていただいた。

選手代表の皆さんには、この大会への意気込みを語っていただき、多くの記者の皆さんからの質疑に対応いただいた。

出席選手；

男子49kg級、ルバンコン（ベトナム）

男子107+kg級、シアマンドラーマン（イラン）

日本選手代表

男子49kg級、三浦浩

女子55kg級、マクドナルド山本恵理



## FOP（舞台）



舞台は、中央に大きな画面を設け、記録、選手の表情、試技を映し、両サイドにはパナソニックさんのご協力で、競技進行情報や、盛り上げ映像を表現していただいた。また、基本コンセプトデザインは、飯田さん。その応用デザインは古山さん。毛筆タッチのデザインや色使いが、日本人独特の柔軟さを表し、大変、日本らしい舞台ができあがった。

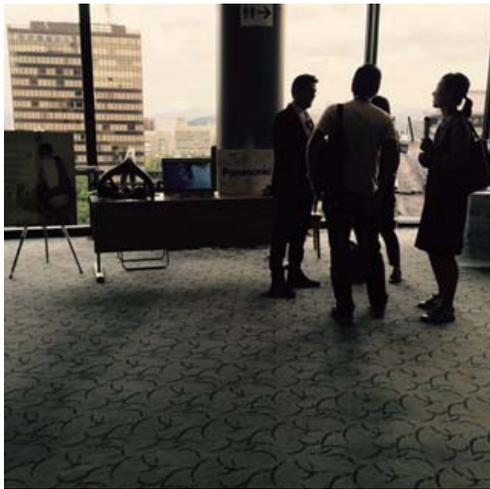
全体的に照明を落とし、効果的に選手をライトアップする手法は、選手を浮き彫りにし、選手の感じているプレッシャーや集中力が、観客に伝わり、選手と観客が

一体感を味わえる演出になっていた。反省点としては、全体に暗い設定のため、陪審員の手元が暗く、各陪審席に手元を照らす照明を準備すべきだった事が上げられる。

とはいえ、心にしみる映像、演出、そして、西岡浩記さんの撮る写真にワールドパラパワーリフティングチームは、大変、喜んでくださり、「クール、クール」を連発しておられた。

連盟としては、「試合進行」に集中するあまり、セレモニーに落ち度があったが、2020 東京組織委員会の方々、ニッポン放送





ATOUN さんのアシストスーツブース。IPC のホールへも立ち寄り、アシストスーツの説明を受ける。(写真上)

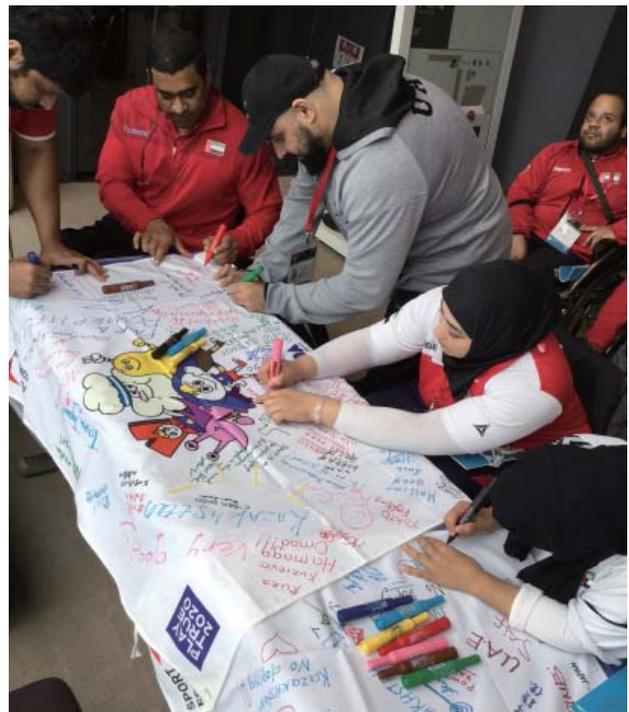
「雨上がりのステップ」支援金を頂き、大会実施に必要な経費に充てさせて頂きました。

プロジェクトチーム、今回の演出チームの皆さんに助けられ、無事切り抜けることが出来たが、この点は、連盟として、大きな、大きな反省点となった。

大ホール舞台上で、連日、選手の熱い戦いが繰り広げられていた一方で、ロビー（ホワイトエ）でも様々な活動が行われた。



## アンチドーピング活動の実施





今大会バックボードデザインと、スポンサーロゴデザイン



### \* 審判試験

大会に先立ち、ヨルダンのアザム講師を迎えて、IPC 公認国内審判員試験を実施しました。その結果、次の方々  
が合格され、今後の JPPF 並びに IPC 主催大会に審判として、スタッフとしてご活躍をお願いすることになりました。

合格者； Yasuharu Furuta                      Yungoung Kim  
                    Yoshihiro Anan                      Yasuto Fukushima  
                    Masayuki Kawai                      Eri Macdonald Yamamoto  
                    Masashi Shinoda                      Richard Mason

## 日本選手の結果



### 女子 41 kg 級 失格 成毛美和

チャレンジカップでアジアパラ標準を突破し、アジア大会で力試し、アジアパラでメダルを狙いに行く、そういう作戦だったが、胸の止めをとられ、失格。48 kg スターとは、軽く、問題のない重量。あと一ヶ月、アジアパラで白をもらえる試技を学び、インドネシアで羽ばたいて欲しい。



**女子45kg級  
8位 小林浩美  
58kg**

さすがに日本女子の第一人者、きっちりと試技を自分のものとし、8位入賞。世界選手権への切符は57kg以上。

こちらは獲得済みなので、2019年世界に向けて、始動！

理論派中嶋選手、納得の練習で、自己ベスト更新。本人はもう少し上げたいようだったが、アメリカ選手権にエントリー、アメリカでの活躍に、請、期待。



**女子50kg級  
10位 中嶋明子  
52kg**

**女子55kg級  
失格**

**マクドナルド山本恵理**

まさかの失格。昨年より実力を10kg以上つけてきていたので、本人も周囲も、期待が大きかっただけに、ショックも大きい。失格を反省に、アメリカ選手権での、大躍進を待ちたい。





**女子67kg級  
7位 森崎可林  
50kg  
(ジュニア1位)**

**女子73kg級  
5位 坂元智香  
67kg**



若干15歳、森崎可林選手。一本目の試技は失敗。「何がなんだか分からず、会場の雰囲気にも飲まれてしまい、自分を見失っていた。」と、振り返る。二本目以降は、しっかりといつもの通りの試技をして、50kgに成功。本人の持つ日本記録を14kgも上回った。ジュニア部門では1位だったが、記録が標準記録に達しなかったため、メダルはもらえなかった。今後の森崎選手の目標は、60kg（リージョナル選手権の標準記録突破）、67kg（世界選手権の標準記録突破）この数値を念頭に、来年の全日本（2019年2月2-3日）を目指してもらいたい。

思いをそのまま、試技にぶつけることの出来る、73kg級の坂元選手。陸上からの転向で、パワー暦は1年と浅いが、スポーツに挑む姿勢は陸上で鍛えられている。判定の厳しい中、全ての試技を成功させ、アジア標準突破、大会後は、連盟強化指定選手Bとして、再出発。

女子選手で、東京パラリンピック参加権利を獲得しているのは、成毛選手、小林選手、中嶋選手、マクドナルド山本選手、森崎選手、坂元選手。来年5月のチャレンジカップまでに、世界選手権標準記録を突破すれば、さらに、東京が近くなる。

それぞれの、数値を胸に、しっかりとトレーニングを重ね、東京パラ参加権利獲得＝2019年世界選手権出場を目指して、邁進してもらいたい。

## 男子49kg級

6位 加藤尊士 117kg

7位 三浦浩 116kg

8位 奥山一輝 109kg

このクラスの第一人者三浦選手の第2, 3試技が通らず、三浦選手の背中を追ってきた加藤選手が三浦選手を上回り、6位入賞。このクラスは、奥山選手が、109kgを上げて、強化指定A選手となり、全員が強化指定A選手。世界選手権は、2名しか出場できないので、今後の熾烈なクラス内順位争いが展開されそうだ。



ジョンメニューをきちんとこなし、地道に力をつけて自己ベストをマーク、加藤選手

練習は順調にこなしていた三浦選手、スタート重量しか通らなかったのが痛かった。リオパラ5位の実力者。アジパラ、東京パラではメダルを狙ってもらいたい。



ジュニアから一般の部へ入ってきた奥山選手。一般の部の壁は厚いが、試合に出るたびに記録を伸ばし、強化指定選手Aランク入り。更なる記録向上で、上位陣を揺さぶってもらいたい。



赤判定ながら、140 kg を押した西崎選手。新たな記録の領域に足を踏み入れた。

気合の入った試技を見せる光瀬選手。あと1 kg。これを合言葉に更なる飛躍を！



## 男子54kg級

6位	西崎哲男	132 kg
9位	光瀬智洋	109 kg
10位	市川光典	103 kg

このクラスの第一人者、西崎選手が、確実な試技で132 kg に成功。念願の140 kg は挙げたものの、残念ながら赤判定、アジアパラでは、試技に磨きを掛けて、是非、140 kg を自分のものにしていただきたい。

二年前の新人発掘事業で合格した光瀬選手。年々記録を高め、109 kg まで伸びてきた。更なる飛躍で、世界選手権標準突破(110 kg)を目指していただきたい。あと、1 kg チャンスはあるぞ！

昨年のエレイコカップで、パラ・パワー初体験の市川選手。健常者のときは、ボルタリングをしていたとのこと、引き締まった上半身で、103 kg まで記録を伸ばす。更なる飛躍を待ち望みたい。

競技暦は1年。まだまだ、経験不足だが、一つ一つの試合を重ねて、記録を伸ばしていつてもらいたい。



**男子59kg級**

**6位 戸田雄也 126kg**

**8位 岡田有史 113kg**



自己ベスト更新、戸田選手。世界標準、パラ標準を突破。後は、どれだけ記録を伸ばせるかに、東京パラがかかっている。アジアパラでの活躍も、請、期待！

肩の怪我に長年悩まされてきた岡田選手。トレーナーさんのケアで怪我からの脱出にほぼ成功。まだまだ、自己ベストには届かないが、ここからが勝負。がんばれがんばれ！

村井都稚夫選手は、エントリーするも、故障に参加を断念。医師の診断書が出ているので、東京パラ参加権利は残る。

## 男子 65 k g 級

10 位 佐野義貴 130 k g

11 位 城隆志 128 k g

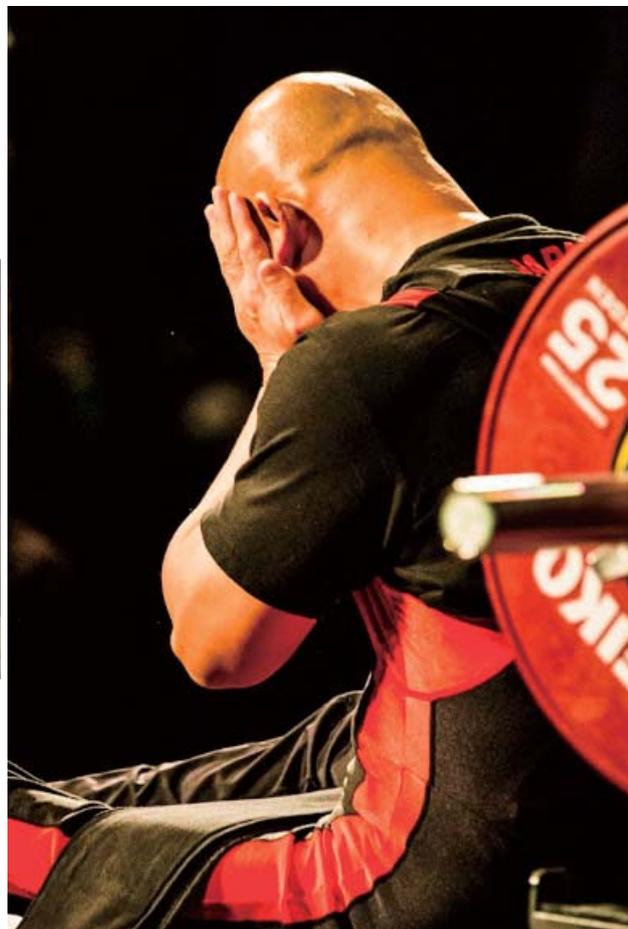
失格 篠田雅士



このクラス、長年君臨している城選手を佐野選手が破って、上位に。記録的には、肘の故障でこの2ヶ月練習をまともにしてこなかったので、低いけど、ここから、飛躍してくれることだろう。佐野選手に、期待。

日本選手の中で、一番競技暦の長い城隆志選手。フェスピック時代からパラパワーリフティングに挑む。(当時はウェイトリフティング) 東京パラでは選歴でも現役でいられることをアピールしたいと、日々、練習に余念がない。

新人、篠田雅士選手。障がいから来る、試技の不安定感がある。大分改善され、これで、OK と、送り出したが、残念ながら失格。さらに磨きを掛けて、白をもらえる試技作りに工夫を凝らしたい。力的には、佐野選手、城選手と拮抗。皆さんで競い合いながら記録をのばしてもらいたい。



## 男子72kg級

4位 樋口健太郎 165kg

8位 田中翔悟 146kg

9位 斉藤伸弘 146kg



つい、昨年の9月に交通事故で、切断。ベッドの中でパラパワーを目指そうと思ったと言うが、その精神力の強さに、驚くばかりだ。競技歴僅か一年で、アジア大会で4位入賞は、驚くべき快挙。さらに記録を目指して、東京パラランキングを上げていてもらいたい。(写真左)

65kgから一階級上げての初試合、田中選手。記録を20kgほど伸ばして、146kg。このクラス常勝の斉藤選手と同記録体重差、と、言う結果となった。今大会終了後、連盟強化指定A選手入り、さらに、実力を伸ばしていただきたい。(写真右下)

体調不良から、ようやく回復した斉藤選手。それでも、自己ベストまでであったという間に、記録を戻し、田中選手との激しいバトルを見せてくれた。体力の戻りとともに、記録も益々伸ばしていただきたい。(写真左下)



## 男子80kg級

4位 金谷晃央 135kg

5位 佐藤芳隆 135kg

失格 宇城元



上から、金谷選手。佐藤選手。

右は自分を見つめて試技に望む宇城選手。



ウェイトトレーニングが好きだと言う、金谷選手と佐藤選手。二人とも、二年前の全日本にひょこっとやって来て、パラ・パワーリフティングの試合に出る。

その後、順調に記録を伸ばし、二人とも135kgまで来た。素晴らしいことは、金谷選手4位、佐藤選手5位に入賞！

二人で競い合って、記録を伸ばして行ってもらいたい。

このクラスの日本の第一人者、宇城元選手。1月と5月に肘の手術。アジア大会出場をどうするか、迷っていたが、決心して出場。調整期間が短かったのかもしれない。思うように力を発揮できず、まさかの失格。

東京パラ参加権利は獲得しているので、今後、どのように調整をしていくか、医療関係者とも相談をしながら、東京パラに向かってもらいたい。

**男子88kg級**

**3位 大堂秀樹 195kg**

アジア大会、連盟、初のメダル。二年前のリオでは、肩の怪我に悩まされ思うように力を発揮できなかったが、この二年間、我慢のリハビリ。よく耐えて、念願のメダル。おめでとう！大堂選手！



**男子97kg級**

**14位 石原正治 145kg**

**15位 馬島誠 145kg**

パラリンピアンの二人、石原選手（車いすバスケット）、馬島選手（パラホッケー）、東京パラリンピックがくることで、パラ・パワーリフティングに再挑戦。さすがパラリンピアン、試合や試技に対する勘所が優れ、試合毎に記録を更新。このまま、二人で、東京に向かってもらいたい。



## 男子107kg級

7位 中辻克仁 198kg

試合、練習時の集中力は、中辻選手が群を抜いている。バーに挑む姿は鬼気迫り、記録は、生涯自己ベストをマーク。

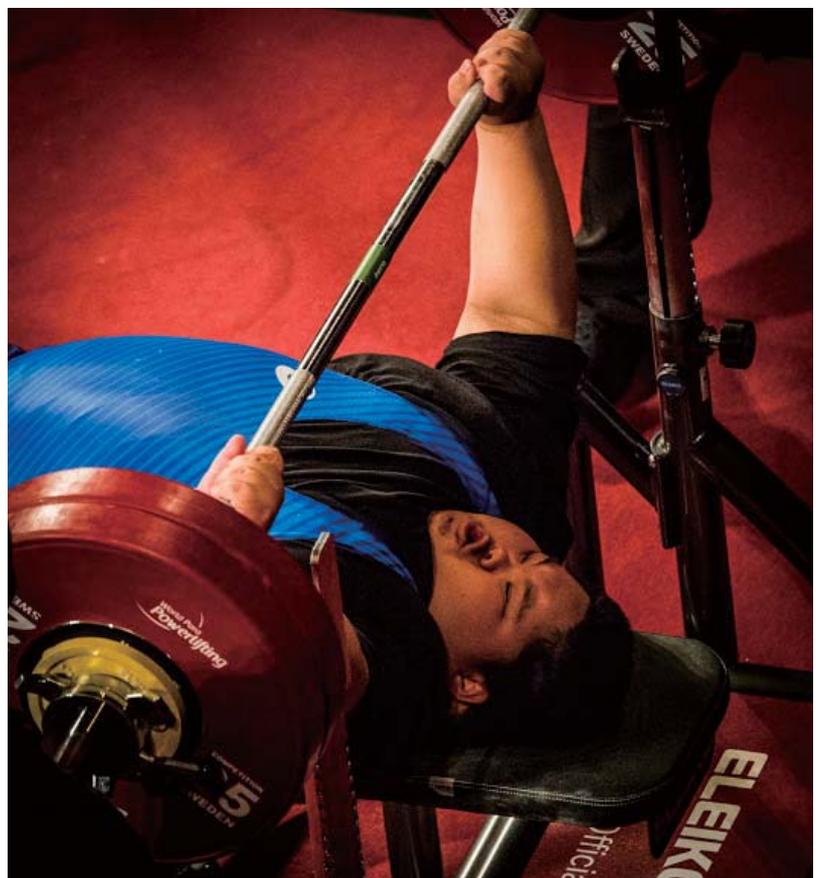
アジアパラでは、一ランク上の記録に挑戦し、メダル獲得を目指してもらいたい。



## 男子107+kg級

9位 松崎泰治 136kg  
(ジュニア1位)

スーパーヘビー級、可愛いキャラクターで人気者の松崎選手。二本目は失敗したものの、第三試技で136kgをしっかりとゲット、アジアパラでは、ジュニアの部、メダル獲得を目指していただきたい。





### \*皆さんの力が集結した大会

アジアオセアニア大会を実現させるに当たり、本当にたくさんの方々のお力をお借りしました。皆様のお力添えなくして、この大会は成り立ちませんでした。連盟として、心から感謝申し上げます。

## ありがとうございました。